



## 泌尿器科

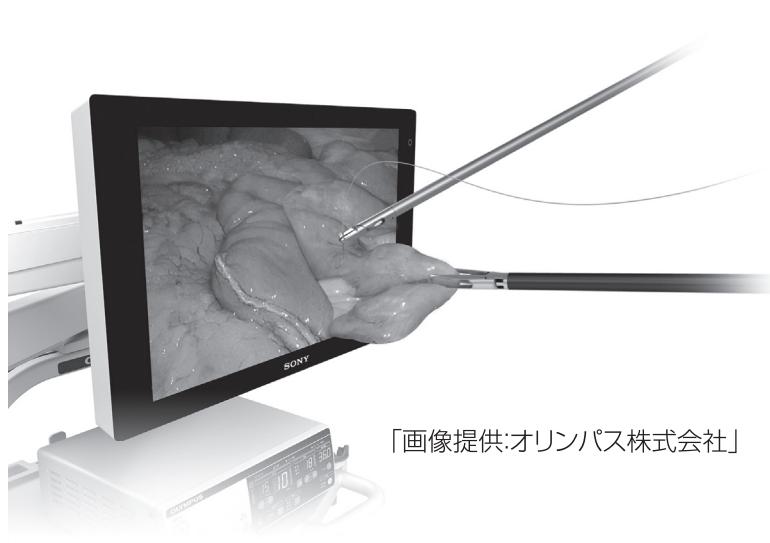
### ～身体に負担の少ない腹腔鏡下手術のご紹介～

泌尿器科領域では、副腎腫瘍、後腹膜腔腫瘍、腎臓がん、腎孟がん、尿管がん、膀胱がん、前立腺がんなど多くの病気に対して「腹腔鏡下手術」が標準的手術方法として行われています。腹腔鏡下手術ではお腹に5~12mm程度の小さな穴を3~4箇所開けて、カメラや手術器具をその穴から挿入し病巣に到達させます。従来の手術方法よりも体を切開する範囲が少ないので、手術中、術後の痛みが少なく、術後早期から退院に向けてのリハビリを始めることができます。

#### 当院の腹腔鏡手術を支える機器とスタッフ

当科では、オリンパス3D内視鏡&3D液晶モニターを使用して腹腔鏡手術を行います。高精細に拡大された立体的な画面を見ながら、臓器や血管、尿管を丁寧に剥離しながら手術を進めていきます。微細な血管などの構造まで見ることができ、非常に繊細な操作が可能となることで従来の開腹手術よりも少ない出血量で手術が可能となります。

また、エアシール・インテリジェントフローシステムと呼ばれる最新の気腹装置を導入しています。手術部位に少量の出血があった時には、血液を吸い取りながら手術操作を進めます。エアシールを使用すると吸引装置を使用しても腹部の炭酸ガスの圧力を自動的に最適な圧力を保つことができます。



「画像提供:オリンパス株式会社」



最新の気腹装置を導入しています

当院では、上記機器をはじめ、その他の精密機器の整備に長けた臨床工学技士、腹腔鏡手術の準備、手術体位の調整、手術中の血栓予防、褥瘡予防策に長けたナース、百戦錬磨の麻酔科医師がチームとなって産婦人科、外科、泌尿器科で複数の腹腔鏡手術を手掛けています。泌尿器科では大阪市立大学医学部附属病院、大阪市立大学泌尿器科連携病院で修練を積み、日本泌尿器科学会／日本泌尿器内視鏡学会の泌尿器腹腔鏡技術認定資格を取得した医師が中心となって根治性と安全性を両立した手術を心掛けて手術を行っています。泌尿器に関するご悩みごとや気になる症状などがある方はお気軽に泌尿器科外来までお越しください。